



梅為集五編
全



四世中一探河賞點の句



香十甲年一御えりしれあ

又弁を請はる老馬且物妙舎

愉快あり哉と云し山花午心

衣生れ継てし編を輯む

蓋その意は細らく尚は冊

乃去く年一と云ふ也

彩やと野生 旧みをりて
竹戸に旅の味し 四方に
你附する 緘に樹し 且
稿を木の旁を助るの暇
は首を免す 題をよると 阿るよ
はどのせきかまを窓下す
毫を採といふ

莊亭
莊丹謹題

寛政初元仲秋日

天明戊申 四世雪中菴完来判

探荷集五編 

山花午心著

六印

丹頂人參探り枯舟の乳 河翠
亥秋の舟おと心くお月小田系曉長

探家書之部

索々然民の心よ海連綿 不騫子

天啓乃ち乃日しし酒を以 葵助

明の春さくらも花能流る 加つと

雲霞とて海に州の初鳥 全

美なる水はみづの杜若 全

文より中にも自然神人 普成

若水は神の繁 瑛揮荒 素白

西行と何ふはかりて花の雲 冠陸

新羅の亦くも神と君 下徳

のちか松自然結なれ松山 高成

悔も先目ふさやうし初誓 小田原 素見

秋上の元おと見えは望の妻 上廿町田 洗耳

是もけ先流りぬ里もふ 得魚

恋もあまのつ暁乃日世安 普成

書神の使はまゝり 柳家 芦岸

元日み午は時と眠く申るるる綿城子子
押能の能持るもれ花見記記
上并今名 龍花

梅しの目見て深く以て不養子

之しをお打こともいい斗斗
奥拥名 魚交

接ふくお合ふ梅乃白白 玉色

梅乃有る流るくくくく
上并 南斗

梅乃里烟雨の中乃自りり
全町田 洗耳

梅乃唯一梅の名名 木羽

梅乃二度笑ひ梅花いますす
新ヶ崎 翠見

白を架け木を遊く梅乃名 河翠

折りけて思ひ梅乃名名
上并 普成

梅乃あら梅乃名名 普成

梅乃あら梅乃名名 葵化

梅乃あら梅乃名名
小田原

梅乃あら梅乃名名 午心

雪舟の筆 雪舟の筆 乃夕月夜 完洛
くさくさの初雪 松と栞 柳系 後田中 儀交
さくさく 松と栞 柳系 玉宇
西之乃月 志 柳系 雪珊
のまじり きの川 松系の中 柳系 蓼助
西之の山 斗 柳系 柳系 川崎 佛甘
くさくさ 柳系 松と栞 柳系 桑白川 千隙

陽あけの 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系
回乃 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系
白乃 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系
我乃 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系
大原 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系
落の 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系
雪 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系

ついでに枝も乱れ
掛川 阿高

きれいな海も
完洛

雨の雫も
魚交

あつた水も
魚尺

あつた雨も
砂月

此後月も
梅谷

洛陽乃上
一風

あつた月も
秋兔

牛高も
牛甫

あつた月も
弄瓢

あつた水も
柳雨

あつた牛も
柳雨

あつた泡も
柳雨

あつた月も
城月

あつた木も
木奴

あつた草も
草成

病を治す舟よりなる流あり 下サカ見

去乃而留望の候も枝打人 海城子

去々流の如原のまを流あり 砂月

春亦やいよくふま都多 小田原 如漢

去々如流を見つけて流心 駿府 河を玉

去の雨は千もたる年 長次 柳産

去々乃雷水より流るる 菅成

宇治橋の水は春乃雨 長次川 深田

白骨の中より流るる 全柳倉 梅溪

去々魚や月あぬ入る 吐芳

去々を流るる 冠露

去々入や松山も唯波の 浦賀 有柙

去々流るる 系花

去々風や春の中より 一語

去々流るる 中谷

客入の善も似まゝの事 遠操地 桃六
まねりや教ふまゝの事 後呂記 雪笑
お梅の社名相の面をぬい 宗壽

陽あとの風も海鳥のかげに 不審子
かけろあやかしきえんて世は 木奴
ふゆは不二画く春の海 後府 周我
一日は回し一節やまゝ入流 京和

真の日や六十帖乃分る 左株
まゝに世生かしの世層 か版紙 類布

落角やらふかこゆし梅の風 綿城子
逆枝は帚杖の椿咲 普成
玉椿さへ流生も院 き京川 花恋
ふふつふふさ 核乃月日 午心
鳴るるる水や 流乃玉椿 夢助

西の千の山に舟を草押 かたむね

さき入初雷や峰の雲 武蔵

山魁の何もと求むとさ解道 かたむね

さしけや水入しちうまの春 君魚

まの午の少雨さきくまはる 海城子

初ふあや富さう恨もかゝ時 木奴

陽火子廻るの聲 上井太田 保茶

海原を走るも河くまゝ 上井太田 音成

くまの目も鳴守山の端に涅槃心 全

幹よ猿松系りあるまきけ かたむね 全

まきくま棒や取の少環の解 海城子

猿探し 渡をまきぬか猿心 仙露

河津の菓も何れんむらじ 下井太田 葵奴

燕や機子馬場のあ上り 駿保後書 柳

戸をぬく神家の遊詩 上井太田 馬童

ほろろ〜成魂の廊の影掃

全接田

五柏

畑あや孤村色は画乃如

奥押倉

梅溪

喜形乃澁ふふ小結う乳

結う街

翠兄

若能や只今山水を結う如

左株

古路〜中〜船〜舟〜重難

かよひ

一の舟舟同〜舟〜舟

上井池田

馬車

夜乃〜山乃〜舟乃〜舟乃

全太田

保恭

苗代や新送さ白〜白扇

要白川

二鳴

心か〜舟〜舟〜舟

後水吉

毒水

橋乃橋穂乃か〜舟〜舟

普成

離柳〜夜〜舟〜舟

雨吟

山代や舟〜舟〜舟

集全

船活〜舟〜舟〜舟

志静

すた〜舟〜舟〜舟

河是

喜勢や春をよみおぼせの事 かたつむ
土生を佛言のて度月おぼ あま 蒼々松
山吹乃鳥の秋をいん あま 河内華
夏子河内藤とあらし泊山 あま 雪冊
連翹をいん あま 音人
つゝ尾上の斜日 あま 文亭
并より花をいん あま 聖見
はふのおき あま 砂月

一節の女はつらや香山

目をたぐ岩根の山や海山 里山

織物 あま 水乃上 あま 聖見
夜活 あま 馬耳
燕の記 あま 涼花
佛 あま 卯乞
かゝりの教 あま 蓮山

かきつばたのついでに 花のついでに 花のついでに

朝夕のついでに 朝夕のついでに 朝夕のついでに 貴身

心やさしく 心やさしく 心やさしく 河野

花の山境のついでに 花の山境のついでに 花の山境のついでに 和流

ささげのついでに ささげのついでに ささげのついでに 不審子

花のついでに 花のついでに 花のついでに 見

お月鞠のついでに 洗牛

枕のついでに 入りのついでに 入りのついでに 文章

波のついでに 波のついでに 波のついでに 秋兔

曲のついでに 曲のついでに 曲のついでに 音成

和歌のついでに 和歌のついでに 和歌のついでに 空成

ちのついでに ちのついでに ちのついでに 蘭石

多のついでに 多のついでに 多のついでに 音成

植のついでに 植のついでに 植のついでに 周我

花のついでに 花のついでに 花のついでに 得魚

心は日ならずとて
 日中草々くふふを
 海を香一覽亭の
 けまゆ流よこり
 中春の佛をふ心
 吐芽
 菅成
 涼花
 菅成
 不塞子

夏之部

後宮入る夏河
 文名二日ハ
 みる子み夏
 衣のくまの
 夏目ハ君ハ
 雲入上ハ
 心は日ならずとて
 日中草々くふふを
 海を香一覽亭の
 けまゆ流よこり
 中春の佛をふ心
 吐芽
 菅成
 涼花
 菅成
 不塞子

少
...
...

...
...

我父在母在...
善成

...
善成

杜...
...

日...
...

又...
徐生

須...
...

...
牡丹畑
蒲生

神...
...

神...
好雨

石...
善成

日...
故

逢...
善成

...
...

夜半の月柳の影
 子能く君いさる孫ハ石燈籠
 得魚
 心くあけり夢かきて神心く
 致し懐
 我友
 榻の外打ひこころ館一夜
 遠野田
 昔毒
 御法の中人提く入る神體
 音人
 印くお酒道も心懸けしは名
 星衣
 幽き方より帯しはあり
 多根
 綿城子

麦娘や花より花より車傳
 得魚
 入道乃と長あも凝く夏去り
 主冊
 石より新しき一夏お魂ハ
 綿城子
 後朝の膚よかきり志く
 子要拥君
 燕巢
 友より花咲時塔塔の生れん
 該清田
 洛梅
 心の中は花咲く
 序方南谷
 文甫
 カがさきとあえん人
 顔よ唄
 新橋
 翠見
 あ〜とあ〜あ〜あ〜の夕煙
 普成

指〜晚入暮〜下廿羽留川正母

〜金川十雨

〜金川身人

〜金川室の心

五月の〜金川室の心

風の〜金川曾成

〜金川梅溪

羽の〜金川綿城子

虹を〜金川不響子

〜金川涼花

住吉や水一天乃帰田極和十

〜金川和十

〜金川阿郎

〜金川荏丹

五月多花新中和麻 柳如紫子
 降杖の下所人 照射特上并版 龍枝
 西多山 起り 結おり 山 活文
 少も 梅日陰のも 櫻花 柳如紫子
 都えぬ多も 花は 結く 困ひ 吟言 下并版 好
 指も 嗔母のあひや 競る 彭壽
 いつらに 結く 花は 紫る へん 屋る 河野 聖
 新命 和規 よら ぬ 悔の 活武 涼花 花

さら 花は 紫る へん 屋る 柳如紫子
 物は 結く 花は 紫る へん 屋る 柳如紫子
 石火矢を 結く 花は 紫る へん 屋る 柳如紫子
 商人乃日結く 花は 紫る へん 屋る 柳如紫子
 雷は 結く 花は 紫る へん 屋る 柳如紫子
 さら 梅は 紫る へん 屋る 柳如紫子
 花は 結く 花は 紫る へん 屋る 柳如紫子

清心のもゝらや矢の無う
得魚
一よ子んもく申お懺年
彭壽
おま火子ち子らあーの月養
柳雀

蠟を控れハ蠅のまゝハ長梧子
父多乃晒ぬくハ雪の那上并坂中露沓
おま子んはあかハ金川 雪子
厨人ハ扇の舞ハ初穂 市交

惟子ハよのくみハ衣 木羽
房ハ大和と申ハ大和島房長水衣
多まのあめハあか子んもく
松葉
おま細のしんハあま枝ハ 荷江
揃分ハ夏野ハ家ハ長馬和名那山 菜木

夏少燕ハあ梅ハあ心 綿城子
暎ハ舞ハあさハあさ 挿全

いさよふたの俳しるし不二話 雪成
多川教のたむ多吉信 曙鳥
空の鳥〜星の光る三宿 三宿 水衣
意歌乃〜多吉信の歌 トサ
楓志は〜拂りし君の得奉 音人
藤の葉の夕日まはる 上サ小西 仙菓

山源〜流のの巻も松斗 長持子

足野のいふ歌しき清水 上サ 其牛
神乃田よ〜多吉信の巻 上サ 紫雲
清まんとすし志水玉柏 木羽
糸物く兜の陣や苔流氷 玉娥
此の〜流のの巻 上サ 斗南
秋乃流のふ巻をかく 金川 空の心
白山よ〜多吉信の巻 上サ 菅成
多吉信の巻 小田原 斗南

城空の月ありて夜は長し

蘇州

扇もも宝の玉のつらみ

上井大権

魚大

鶴の井の目を眺く者も

亀二

幻の稲妻の遠くをゆく

河翠

西の江のほとりゆく人

洗心

程多し子に細持の文

柳川

其桂

川持の河漕もあて

長久

涼花

悠然とくさるる六月の柳

花

下りては柳ありて

長久

二鳴

涼もわねに

房天伴

可山

まはる人よ

長久

胡園

夕涼子ありて

渡府

桐君

門下は狭乃里人

吹石

川下は

上井中

菅河

湖のほとりありて

全接田

金甲

月山入橋のくまの月 後尾 貫怒

夏の月杵を枕よ詠き栞 下甘梅

海子乃龜車 遠見 阿帝

ササキ 川 声

悼 川 里

世 川 山

解 川 心

勢 山 松

阿 小田原 眠石

は 吐 芳

中 可 田

む 星 衣

中 梅 舎

は 碓 月

高成

形一 流一 志一 杖 金川
清一 後一 流一 一 水一 神一 の一 如

金川
三十一

秋之部

仲 秋一 柳一 絮一 子
静一 長一 梧一 子
妹一 河一 昂
第一 日一 秋一 竹一 尋
丁一 洛一 梅
魚一 鳴

魚色一 命一 殿一 古一 亦一 相一 一 紫一 二一 鳴

春山花鳥 正徳の星 後清田 糸英

早稲花鳥 正徳の星 上井田 兔陸

新龍も法乃 正徳の星 史一

草花 正徳の星 画難坊 高成

胡鳥 正徳の星 七世の正徳 得魚

草花 正徳の星 正徳の星 吐芳

龍 正徳の星 具足七世の星 海城子

焼木や我々 正徳の新堂舎 不塞子

稲妻 正徳の星 正徳の星 正徳 水衣

草花 正徳の星 正徳の星 正徳 四徳

草花 正徳の星 正徳の星 正徳 深井

草花 正徳の星 正徳の星 正徳 阿部

草花 正徳の星 正徳の星 正徳 笠寛

草花 正徳の星 正徳の星 正徳 笠寛

臨つゝや鏡ひあき秋のそよ 之上

花書あふふあを一田句 吹雨

白浪のつらき 周我

夕暮子幹子 集頓

文如秋心山子 吾人

字は穉成けて持人天乃何 聖冊

妹許やとほほと魂原 聖冊

又暮子八割 聖冊

新編除暮系詩野寺加南 加南

下流の暮子の持をせ 馬丹

七塔尺を 河

鏡書結玉年 雨吟

あつたるや漏の声七破 素明

骨子たす 鳳竹

故乃也や慮氏 鳳竹

きりぎりすやあゝ遠くはるの声
津車あゝかりんねけり地吟

花さきし梓の音は勤い 不審子

忽ちこころはこころは静い 木奴

不吉なる厩又とまきくい 長梧子

父を思ひおとし川に静柳 卯毛

秋風の父や追しん妹の踪 かゝるい

白くハ唯雪のて秋のふ 亀二

幻の囀をよめ架けり蝶 曙馬

秋乃蝶往き流しとる分い 雨吟

静流を我く流して倒い 綴

湯は日も澄日もあゝ梅の水 左株

庭より飛大は乃石や秋はあ 京花

足かゝぬ杉や孤塚の水車 せつい

秋のあやむら返の肩まじり桂和品 糸作

雲の月影入り襟の印し白月金川 雲け

子もももぬ英人子似紫鶴掛川 其桂

赤糸の糸くさくさ幾日結り月 古橋

流すこし輝の花おれおゆを 青派

秋糸のや流り澄れ古瓦 古橋

夕の暮もるら海のはり糸風心 河也

名月や池の畔より舟彦根 氷夜

川に潮を走る大井川 古橋

一輪の月よりら舞臺の汐 全

名月お洞を穿り光る那 音成

星雲のりり吹しり月 旭丈

川にやあを流り一垣子 彭壽

馬蹄の寮のま庭にたる月上井町田 洗耳

冬月也... 連牛

冬月也... 得魚

明月也... 河梁

明月也... 完路

冬月也... 冠羅

冬月也... 金川

明月也... 遠海田

冬月也... 阿山

明月也... 点花

冬月也... 雨吟

冬月也... 九株

擗... 相若

冬月也... 上井

冬月也... 全版院

冬月也... 舞鏡

秋乃多望よん其成のそらけり
音流

福来や近もつるあ梅の風
雨吟

殊乃とせ穢穢の母尺海いり

秋のそら井の月を喜ばれ下十

亦多しと吹しそら梅の風
松海

秋のそら二の室を人ともなし
梅戸

あきそらそら帯もよ雲あき
秋物

梅のそらや西海乃尺一風中
柳如京子

草おわふ山亭一西乃京
浪帝

一枯のそら舎り峰の月
梅宇

川もそら紙し住もそら

蹄しそら起るる如し秋の雲
舞鏡

ふそらをりしそら来つし秋の雲
我文

山神よ月そらそら河の暮
蓮龜

峰乃そら流し水を嘆りし
菊五

林下

沈吟々々休見とく々々娘のそれ

貫耳

妹のうらみあはれあはれあはれあはれ

刀等々々夜寝人や秋のくれ

木羽

秋のうらみあはれあはれあはれあはれ

角門小波乃小名わささる

仙露

唇一羽伝人々々々々々々

かたむ

この原形有あはれあはれあはれあはれ

頌道

洛陽乃あはれあはれあはれあはれ

音月乃あはれあはれあはれあはれ

栖睦

鶯啼あはれあはれあはれあはれ

かたむ

舌乃あはれあはれあはれあはれ

辞鏡

主勢乃あはれあはれあはれあはれ

秋栞

何々々々々々一山々々々々々々

雪丸

陣乃あはれあはれあはれあはれ

かたむ

去々々々々々神鏡七さる

得魚

草の心もさかすか
あはれなる心

午

この心もあはれなる心
錦城子

種多き心もあはれなる心
全

心もあはれなる心
道

道もあはれなる心
完路

あはれなる心
全

あはれなる心
全

角力丸双心
河野

すもも心
亀

疾心の心
午心

今心酒心
實秀

草心
草波

心
人

心
心

しめ火もえゆる藤蔭のあはれ

浪成

伊勢津

一山を長巻ゆるるる時白

く川原の中よき水

達琴

船は遠くお入梅の昔

燕梁

百日にんきりし菊の花

越丈

あし菊は是よ合きと杜若

得魚

ふきやけぬきぬきぬき

京花

菊はあはれしれあのみ

栖枝

茶の香も旧都もあはれ 披雲子

中記のあはれき若村の樹も古風 得魚

去るよの葉もあはれ 秋の暮 秋杵

あはれ日乃谷原のあはれ 雲 珊

あはれの一画のあはれ 買 細

人乃たの山も 烟もあはれ 得魚

啄木もあはれ 菊もあはれ

弱く少日のさび若く暮る 臨城子

此後よつたき反り 蟬 上并抄 吏 後 柳

たうらあや水 心 松の星 後 源 義

古くは江河の水も漲らん 柳 石

于瓢を火より里にあらは

白浪乃を及我洗ふ夜を分 其 風

湫の又よ枯草の梅よま 亀 二

はるる舞く還り来りて 上并抄 舞 鏡

暮水澄るも秋の心 考 柳倉 洗 牛

佛の刻む人も佛と秋入らぬ 音 成

柳乃ら轉るも柳味 今

后結月又照多き光る程 完 路

後乃月あつたを離るる 音 成

端ぬら 露の跡も後乃月

里人の村場殿の川田の乳美白川 千疎
 一輪の松の秋の夕陽も半 芝園
 ゆく鶴や芭蕉の肌も人乃如 松の山

冬部

新しそ尺端を松の時句
 去る松の物のおきて天里寺 普成
 雪の末の鏡も松のくさし 栄沙
 月より帯の松の雨のふり 馬耳
 因幡の松のふりも松の六月 河原
 おもひ松の松のふりも松の春 芝月
 葉肉子の牛のふりも松の風 音人

口切の松のこ此涼部
繩索の心射者也武方之も涼風れ
父日さく古事記の意に干藻
秋杵
涼花
曲眩

余や宿多れ落る松系
高し一の山定は後年にく
木枯らぬぬ飛ぬのゆき松戸方
余中割一木陣に十子子
栖蛙
氷衣
物我

こかり口麻子翅乃ゆきぬ
傳花の地糸の枝活々人
吹し幹と刃し牡丹後序
暮琴の終る遠塚や枯尾糸
心もくくくく月や杜尾花
初なるも初みの糸を枯柳
蓮生れ花のこらさすお心掛川
ま風あか芦乃地糸のかいり

老阿
稲里
秋杵
芦岸
夢化
阿昂

松乃棧のり秋夜感の如
榊のり海探し忍ぶ系
巴人

樽乃火の精の生騰りて
ほのちや若菜ののち
君魚

文の如くはちよ入るる
文の如くはちよ入るる
草枯れ麻の如く
其冬

人乃棒火の如く
枯坐系
燕梁

浦子香 鯨の膏の如く
柳絮子

舟少飛車浦の雲や山
月如く夕波ちよ入るる
秋石

短き一糸香も草の如く
波神の如くありし
貫怒
文亀

可山

炭うむや乾も中ぬ昔流る 綿城子

すゝ雷や枝よむ形も子親 梅系

並羽宿もやまお松の流月楯 普成

熊取う後板けり影敷う乳 上井木更澤 大椿

白く山灰月日も那のぬく 加三子

埋木の房もあけり櫓方部 葵助

母も此まゝ一啼り人暖香 秋杵

松山乃流るゝおれ暖るり 加三子

流るゝ木魚も尺にて細紙家 遠柳 甚桂

文ゆゝら床も榊らん細代家 全 甚妻

烏帽子着くやゝん中流の 上井木更澤 甚母

鯨ゝぬ鯨のそん流持て 細紙家 甚冊

流るゝ鯨ゝ流るゝ口書う那 上井木更澤 甚波伎

妙法も吞くまづらん書鯨 全白川 林夫

弓射ぬも君う海あり字録波府 笑山
及相倉 梅溪
蓮葉 花雪も生くふ録う事 月架

みよりの初ても物さるれ心 柳如来子
く孫さるる世も風もあふ山玉 玄香
父母の友さる巨魁一語りい 得魚
勢人きふ画く人を戸は照り 菰任

念ん世なりしらの海の徳うれ 玉宇
髪念のりも福打の住事あり 全

曉乃曉なき声や陣相 河内足
あま文夜の歌も法もきき 砂月
舞手もさるる舞や陣鼓 がある
うは玉の相根もさるる陣和 がある
休材もあつる人陣和 がある

梅うみはまのゆきも冬至山 来白 二鳴
 我より結ぶの如く冬は 曲眩
 まるまると垣に乾く酒中
 うさぎの柳を母よ泣く人 唯の心
 納豆小半此刀をまきり 一語
 納豆乃漬物も冬は 得魚
 世の中はあはれ 試み 風化

見余は油かき 全右田 素明
上野大畑 雪母

夕段乃破の巻く 冬 得魚
 旭さし矢引の櫓乃 冬 得魚
 浪萩乃屏風 冬 松花
 神板の行 冬 榮秀
 吹 冬 南塔

馬の素元ののはのはのは

仙露

うはのはのはのはのは

得魚

連乃かつらのはのは

榮秀

喜ものはのはのはのは

宗義

下ののはを尋ねたのは

麦都

るるのはのはのはのは

水衣

水川やねを空ける水の音

崇義

あらのはのはのはのは

トサカ川

あらのはのはのはのは

葵奴

あらのはのはのはのは

榮秀

あらのはのはのはのは

老阿

あらのはのはのはのは

白川二鳴

あらのはのはのはのは

上井

あらのはのはのはのは

全庵

とせ

神代く件乃ぬ波の尻里石

火種をなまらるる雪の香 完路

井水を伝見院乃あ所か 社月

白ぬの陽さく丸雪の友遠舟也文亀

雪よ入さぬ楳乃あ乃あ乃

白多の化し君さるん船五百川

去るる声響さるあ乃あ 完路

陽あの水く物くあ乃あ 得魚

曉乃おれさうさくしくのさ秋兔

梅さうあなす舟のさうあ 朝壽

金華さうぬ心も清きさうあ 古柳

さう乃あさうさうさうあ伊路津浪箒

一山さう皆柳しさうの雪

雞乃腹さ映れ燈のさ 午心

小お神楽さ女も花の如し女屋内巴人

杉柏乃声子の古一里が

洞沙

燐々く根乃枯皮をり

加

寸指の心く相重むり

實秀

糸内の為も掃涼の御殿

上并介家

龍花

煉掃乃蘇花く見和

古堵

佛名和油の風もる雲

秋杵

為れと柳のぬかぬ配

賀道

流寺との隣ありまぬ配

老杉も撥を投りて配

木羽

心くわんまぬ配

流のまぬま井のまぬ配

善成

人魚の酒ををぬ配

歡丈

吃乃鬼のまぬ配

曇雨

くみ肉のまぬ配

真風

年乃交敷の徒外時一以如 不騫子
 一 柳枝
 五三の清美一 高成
 一 柳枝
 一 其風
 一 把菊
 一 古曆

七折の... 古曆
 一 洗耳
 一 砂月
 一 仙露
 一 花意
 一 午心



江戸本町三丁目

書林 西村源六

